

旭川

一般社団法人旭川青年会議所 広報誌

2016



INDEX:

2016年度広報誌発刊にあたって
第66代理事長 石川 泰路

JC radio station × Special talk
まちの豊かさ循環委員会委員長 旭川市経済総務課 課長 旭川市経済総務課
菅井 謙敬 × 岩崎 昌美氏 × 小川 大介氏

未来の力支援委員会 委員長 旭川まつり支援次年度担当委員長
今津 寛介 × 守谷 実

烈夏七夕まつり実行委員会 委員長 烈夏七夕まつり実行委員会 総リ部会長
伊藤 久美 × 堀 愛子氏

アカデミー研修委員会 委員長 第64代理事長 (歴代理事長)
近藤 耕介 × 牧原 史典先輩

旭川JCの歴史／活動軌跡／新会員募集／
メンバーメッセージ／組織図

2017年度理事長あいさつ
第67代理事長 海老子川 雄介



Next Stage on the Dreamers

2016年度スローガン

～五年後の未来を描き、踏み出す青年達～



第66代 理事長
石川 泰路

2016年度広報誌発刊にあたって

私たち旭川青年会議所は、1950年11月18日に創立して以来「明るい豊かな社会」を築くために様々な運動を展開してまいりました。その歴史を振り返りますと、創立当初は戦後の混乱状態の中で、日本の再建は青年の使命であると、その責任を痛感し、若さと活動力に富んだ青年が集い、それから実に66年もの間、時代の変化に適応しながら常に未来を見据え、歩みを続けてまいりました。

近年は2010年代運動指針である「旭川JC宣言～夢ビジョン2010」に沿った運動を行っており、本年は2010年代後半にさしかかるスタートの年として、宣言文のなかの一文にある「豊かさの探求によるわがまち・あさひかわの発展」について深く掘り下げ、2020年に向けて方向を指し示すスタートの一年とするべく、地方創生、青少年育成、地域のリーダーづくりなど様々な運動や事業を行ってまいりました。本広報誌を通じて少しでも私たち旭川青年会議所の運動にご理解をいただき今後ともご協力を頂ければ幸いです。

現在私たちは、70名の会員数で運動を展開しておりますが、随時会員を募集しております。青年会議所は大きな可能性に向けての自己投資です。他では得られない信頼関係と真の友情を育みながら、私たちのまち旭川の未来をつくりあげて行く過程で、自己啓発の機会、地域社会での人脈づくり、国際交流を通じたグローバルな慣性と広がり、様々なビジネスと経営開発の機会など、たくさんの学びや出会いから、自らの成長や気づきを経て、将来に大きな可能性を見出してくれる場所ですので、ぜひともお問い合わせください。

JC radio station Special talk Session

毎月第1・第3水曜日 14:30-15:00 までの30分間のラジオ番組を通じて、ひとづくり、まちづくりの様々な情報をはじめ、旭川JCが行う例会及び事業の発信や、メンバーや関係諸団体の紹介を行ってまいりました。ラジオで放送された対談の様子を抜粋して紹介いたします。

JC radio station × Special talk Session.1

テーマ：産官学連携の発展

まちの豊かさ循環委員会では年間を通じて「みんなで話す」ということをテーマに産官学連携の発展を掲げ活動しました。

1月第二例会「官民協働のまちづくり～小さな一歩がとれる大きな未来～」では旭川市長 西川将人氏をお呼びし様々な観点から旭川青年会議所メンバーが市政と連携する事業を提案。西川市長が見解を示す形で行われ、夢のある貴重な意見交換の場となりました。



6月第一例会「協働のまちづくり～JAYCEEにできること～」では旭川市役所の経済総務課、地域振興課、スポーツ課、観光課、都市交流課から13名にご参加頂き、旭川が目指す地域産業の持続的発展について、行政の考える理想像や問題点。それに対して旭川にあるどの素材を使えば理想像に近づくか。旭川青年会議所メンバー自社でできることがないだろうか等、それぞれのテーブルで具体的な意見交換をすることができました。



上記例会で紹介したJCにできるこの事例として旭川大学経済ゼミへ訪問し実際に学生と話すことで産官学連携のまちづくりに携わりました。



旭川大学経済ゼミの様子
QRコードより(Youtube)

まちの豊かさ循環委員会委員長

旭川市経済総務課 課長

旭川市経済総務課

菅井 謙敬 × 岩崎 昌美氏 × 小川 大介氏

6月第一例会にご参加頂いて

菅井 政治経済の委員会として、もう少し現場よりの方と話ができればいいねという事がこの例会を行った入り口でした。実際に行政の方がどんな事を担当しているのか、逆にJCはこんな活動をしています、職場ではこんなことをしています等、情報交流をすることで協働できることがあるのではないかと考え実践しました。

岩崎 私たちもJCの方に自分達の仕事内容や思いを伝えることができ、各企業のお話も聞ける場でとても和気あいあいとした楽しい時間でした。社長さんだけではなく企業から派遣されているメンバーもいることがわかり、会社ではそれぞれの役割がある中でも皆さん献身的にまちづくりに参加されているなという印象を持ちました。

菅井 13名もの市役所の方にご出席頂いたのは光栄でした。JCメンバーもこのような形で関わりをもつ機会ではなかったようでとても新鮮で勉強になったという声を頂きました。

協働のまちづくり

岩崎 例会の時に旭川市役所で掲載している「はたらくあさひかわ」の紹介をさせていただきました。市役所でも色々な事業がある中で現在とても力を入れている一つです。

菅井 こちらは企業情報提供サイトで市内の企業やそこで働く人の魅力を広く周知し若者の地元定着やUIターンを希望する方との橋渡しを目的とするものです。弊社でも登録していますが各企業の経営者の想いや考え写真等も掲載し、どのような会社なのかが見てわかるようになっています。

小川 現在、道外の方に周知するために東京・大阪・愛知で行われているUIターンフェアというUIターン希望者が集まってくる場で「はたらくあさひかわ」のPRを一生懸命しているところです。

岩崎 多くの企業の皆さんに登録して頂き、旭川で働きたいという方が増えてくれればと思っていますし、各企業のお役に立てればと思います。

小川 市役所では調査分析等をしながら、地域にとって良いものを届けられるように事業構築をするのですが、「はたらくあさひかわ」登録時の取材で各企業のリアルな声を聞くことにより、様々な事業構築の役立ちがわかり、この事業を通して企業の皆様と繋がりを持たせたことは財産になりました。

岩崎 旭川は中小企業が99%です。その企業の皆さんが元気なのが一番なので旭川市役所と、この度ご縁を頂いたJCの若い皆さんの力で頑張っていければと思います。

菅井 JCメンバーも行政が目指している事を、できることは手伝いますという姿勢なので、協働のまちづくりにしていきたいですね。



左から旭川市経済総務課の小川氏、岩崎氏、例会担当委員長の菅井氏



未来の力支援委員会 委員長

今津 寛介 × 守谷 実



旭川冬まつり支援次年度担当委員長

旭川冬まつり支援事業の継承

今津 旭川青年会議では冬まつりの支援を 20 年近く続けてきました。週れば、2000 年代は春光台や東旭川の公園で氷彫刻のサポートを行い、2008 年からはアイスドーム。近年ではメインステージ横での事業と変化してきました。今年はターニングポイントと言われる年になりましたが、なぜかと言うと従来の JC による企画運営に加えて、冬まつり実行委員会や企画委員会のサポートも同時並行で進めていったことからそういわれるようになりました。

守谷 本年は今津委員長と共に冬まつり支援をしました。が、これまでにない斬新なアイデアを持って挑戦しカタチになった年でしたね。

今津 自らの企画と共に冬まつり実行委員会の要望に応じていくよう努めました。買物公園企画委員会と高校生が行っている駅前～七条緑道へと続くウェルカム雪だるま設置サポート、チューブすべり、高校生雪像甲子園への参画、駐車場の警備などを行い、委員会として冬でありながらの山女魚釣り（笑）、琉球大附属小生徒の引率、体験氷彫刻、旭川 UC との連携、市内有志協力の元スノーボードコンテストも開催し非常に実り多い冬まつり支援となりました。

守谷 来年はこの今津委員長の情熱を受け継ぐことになりました。これまでも冬まつりの担当委員会にいたので例年と変わりはありませんが、次年度は担当理事、事務局長ということでプレッシャーはありますね。来年は JC の担当ブースが常盤

公園に変わります。今まで以上に華やかな会場となるような飾りつけを行い沢山の皆様に足を運んで頂けたらと思います。

今津 旭川冬まつりは準備段階から冬まつりのスタート、フィナーレまで寒い中長い期間時間もとられます。しかし、毎年 80 万人以上の来場しており、今年は 93 万人近い人たちが訪れた旭川の一大イベントです。それだけにやりがいがある。来年は JC らしく、守谷事務局長らしく旭川の冬の魅力を大いに発信してほしいですね。

守谷 初めて青年会議所の冬まつり支援のお手伝いに参加させていただいた時にボランティアさんが作ったクオリティの高い雪像に感動したのが僕の原点です。来年は、その原点である雪の造作物を増やすこと、会場を常盤公園に移し華やかに飾り付けることを考えています。ボランティアさんにも様々な関わり方でお力添えをいただきたく思いますので【冬の楽園“あさひかわ”】の実現に向け皆様のご協力をよろしくお願い致します。



期間中の平日も委員会メンバーが常駐し、のべ6000名の子供たちや観光客の皆様が楽しみました。

未来の力支援委員会の職務は冬まつり支援と青少年事業となっています。青少年事業は国立青少年教育振興機構体験の風をおこそう推進事業として市内小学生の親子 60 名を対象に日常では得難い様々な体験を提供するバスツアー（座禅・食育・郷土愛の育成等）を計画していましたが、本年の記録的な大雨の影響で開催前日急遽中止と致しました。



残念ながら中止になった、「わくわく体験バスツアー」

また、田下昌明先輩を講師に「主体的に行動するたくましい日本人の育て方」と題メンバー向けの例会を実施、混沌とする時代において、生きる力を持ち主体的に行動するたくましい日本人を育成していくために、家庭教育は、地域社会はどうあるべきか学びました。



子育てと愛国心について講演する田下先輩

リベライン会場は石狩川の流域にあることから、参加者にこれからの自然環境にも思いを致してほしいという考えから体験山女魚釣りも実施しました。



子供たちに大人気だった体験山女魚釣り！

烈夏七まつり実行委員会委員長

伊藤 久美 × 堀 愛子氏

烈夏七まつり実行委員会 踊り部会長

見るまつりから参加するまつりへ

伊藤 今年は烈夏七まつりの実行委員長をさせて頂き、堀さんにも実行委員会で踊り会部会長としてご活躍頂きました。

堀 私が烈夏七まつりに関わるようになったのは 3 年前からで当時から JC さんの 100 年続くまつりにしたいという思いがある中、そのためにはやはり若い子たちにどんどん参加してほしいと考えていました。

伊藤 その通りで、市民の方にとって烈夏は参加するまつりという感覚はなかなかもてないのが現状でした。JC でも近年少しずつそのカタチを変化させてきました。

堀 実際に参加の窓口を広げ体験踊りに挑戦したのが昨年で、その時は参加者を集い当日ぶっつけ本番で行いましたね。

伊藤 それまでは踊りの参加団体として踊っていたのが、子どもとコミュニケーションをとって指導しながら怪我のないように神経も使い大変だったと思います。

堀 そうですね。それでも成功に終わったので今年は本格的に 2 回の練習会とミーティングを重ねました。昨年より参加者の一体感がありました子どもをあずけ、観覧者でいた親も今回は事前にコンタクトをとっていたので、とても協力的に動いてくれました。

伊藤 続けていくことで毎年良いものになっていくと思いますし、何より毎年参加者が増えてくれると嬉しいですね。今年はその為の大切な土台をつくるのが出来たと思います。

伊藤 昨年から地点管理も山車の参加者団体から各 1 名だして頂き、みんなで創るまつりをイメージして行い、

歴代初の女性実行委員長 伊藤委員長と、踊り部会長の堀氏



今年は更に実行委員会の中に地点管理部会を立ち上げ事前打ち合わせを重ね、当日を迎えました。

堀 昨年は実行委員会の時、参加者団体から地点管理者を 1 名出すというときに殺伐とした空気になっていましたよね。

伊藤 そうですね。やはり参加者団体の方も全員で山車連行を行いたいという中で、それでも何とか皆様にご理解を頂きました。今年は地点管理部会にも前向きにご参加いただけたので、今後も地域に根ざしたまつりとして 100 年続く旭川の顔になるまつりへと進化してほしいと思います。

堀 体験踊りも基本的には小学生の募集を行っていましたが、中高校生をどんどんいれて徐々に年齢関係なく一般の方が大勢参加していけたらと考えています。子どもたちの郷土愛にもつながっていくと思います。大人になり社会にでた時に地域のまつりを盛上げたいと思ってくれる人材になってほしいというのが私の願いです。皆さん烈夏七まつりに一緒に参加しましょう！！

伊藤 JC では次世代を担う子どもたちに郷土愛を育んでもらいたいという気持ちで様々な事業を行っています。烈夏を通してその様に思ってもらえると本当に嬉しいです。来年も是非宜しくお願い致します。

烈夏七まつりは、「旭川の顔になる新しい夏まつりを百年後に伝えよう」という、地元の愛情、そして毎年必ず同じ時期に開催される旭川を代表するまつりとなってほしいという想いから旭川青年会議所で 1991 年に第 1 回を開催しました。このまつりは旭川開基 100 周年に誕生以来、踊り・太鼓そして山車の連行を基本とし、毎年様々な工夫により変化を重ねてきました。近年は昭和通りを使用しメインストリートが一直線に見渡せるようになり、太鼓フェスティバル With YOSAKOI の開催や、太鼓カムイの参加、ダイナミックな山車の連行、山車コンテストの開催、5 条通りでの感動的なフィナーレの演出などにより、魅力のある「まつり」を創造してきました。本年は更に多くの方に参加していただけるよう、創始の想いを大切に 100 年続くまつりへ向けた新たな一歩を踏み出しました。



烈夏七まつり 体験踊り本番の様子



烈夏七まつり フィナーレの様子

アカデミー研修委員会委員長

第64代理事長(歴代理事長)

近藤 耕介 × 牧原 史典

シニアクラブ諸先輩との繋がり、学び

近藤 今年は新会員に対して2回新会員セミナーを開催し、1回目には牧原先輩に講師・コーディネーターとしてご臨席頂きました。また、2回目には江夏秀則先輩をお招きしてJCの歴史やまちづくりについてご講話をお願いしました。生の先輩方の話を聞いて貰うのはとてもためになるので良かったと思います。

牧原 私が入会時、先輩に言われたのは各メンバーには所属企業があり、会社を代表してJCに参加しているという意識が重要であるという事です。そのメンバーを通して、良くも悪くも会社が評価される側面があるので、とにかく一生懸命参加して欲しいと言われました。そしてそこには、いつでもしっかりとフォローしてくれる先輩の姿がありました。

近藤 新会員という立場では何も分からないからこそ特に大事な部分ですよ。そしてフォローをしてくれる先輩に対しての恩義を感じ、気持ちに脈々と受け継がれていく。そんな心通わす機会が無数にあるのがJCであり、先輩から後輩に語り継いでいく歴史・伝統の中で、人と人の繋がりが生まれる点はこの組織の良い所だと思います。

JC運動を通じての人脈形成

牧原 セミナーの続きになりますがJCの活動を一生涯やっていると、自然とそれに伴ってJC以外の方々

とも広く人脈が形成されます。ご縁を頂いた方々から、卒業後も何か事業をやる際にお声掛けを頂けるようになります。近藤委員長は入会年数どのくらいになりましたか？

近藤 入会11年目になりましたね。やはりJCの活動を通じた人脈の形成というのはとても広がりのあるものと感じています。旭川に限らず、出向を通して他地域の同年代の方との友情が育まれ、時にはビジネスマッチングの側面にもプラスになる事がありました。

牧原 私も日本JCに出向させて頂きましたが自分よりも当時年下の方でも、とてもポテンシャルの高い仲間が沢山いて、地域毎の文化や考え方の違いを知る事が出来たのと、普段では行けない土地にお邪魔したり、普段では会えない方とご縁を頂いたり経験の幅が広がりました。

近藤 JCに入会していなければ経験できたかったことは本当に沢山ありますよね。新会員担当の委員長としては今年入会したメンバーが次年度以降LOMや出向先で人との繋がりの中、成長し活躍する姿を見ることがとても楽しみです。

牧原 少しでも入会をお考えの方は、一回門を叩いて自分で経験をして頂く事が間違いなくご自身の成長や学びになるとと思いますし、現役メンバーにも、とにかく一生懸命動き積極的に活動をお願いしたいと思います。その経験や学び、人脈は必ず自分の財産として残ります。どんなことでもまずはやってみないとわからないものです。

アカデミー研修委員会では、新会員セミナーや例会でシニアクラブの諸先輩にお越し頂き新会員をはじめ現役メンバーに先輩方の経験談を聞いてもらうことで今後のJC運動に対して前向きな取り組みができるよう会員研修を行いました。

また入会年数が浅いメンバーが増えてきていることを提示し、JCの学びを得る会員研修及びシニアクラブの諸先輩方との繋がりが更に大切になることをメンバーに知って頂く機会を提供しました。



新会員の質問に答える牧原先輩



旭川冬まつり企画委員長の江夏先輩



新会員セミナー 近藤委員長まとめ

青年会議所の事業の紹介

旭川のまちづくり・人づくりの架け橋に。

旭川ナナカマド基金

心あるまちづくり
推進キャンペーン

旭川のまちづくり・人づくりを応援

旭川青年会議所では、旭川市民の生活・文化の向上に寄与するまちづくり並びに人づくりを目的として活動している団体へ資金助成を行うための基金を設立しています。本基金は旭川青年会議所からの出資金をはじめ、飲料メーカー2社の自動販売機による収益の一部と地元企業や個人からの寄付金が充てられており、対象団体に対し上限として毎年年間30万円の助成を行っています。

I LOVE あさひかわ運動～心あるまちづくり推進キャンペーン～

旭川の誇れるところは何ですか？旭川の好きな場所はどこですか？大好きな旭川の魅力を、隣にいる大切な人、初めて出会った人、色んな人に伝えて共有しようというキャンペーンです。まちづくりの最小単位は人と人がつながることだと捉え、地域に住み暮らす人々の思い出を掘り起こし、地域の魅力を引き出し、ひとづくりや、まちづくりへの一歩につなげる運動として行っています。

旭川JCの歴史

1950年	旭川JC設立	1991年～	烈夏七夕まつりの開催
1964年	ナナカマド植樹(旭川の木となる)	2005年～	旭山動物園マイスター制度
1971年	旭川医科大学の誘致運動	2008年	たいせつマルシェの開催
1981年	中小企業大学の誘致運動	2009年～	旭川ユナイテッドチルドレン設立
1988年	旭川綱引大会の開催	2012年	東日本大震災復興支援事業実施
1990年～	アイスアートフェスタ・市民氷彫刻コンテストの開催	2013年～	旭川ナナカマド基金の設立



買物公園実験風景(1969年)



旭川医科大学誘致運動(1971年)



烈夏七夕まつりの開催(1991年)

旭川JCは1950年11月18日創立総会をもって発足しました。当時敗戦後の混乱状態に対して、日本の再建はわれわれ青年の使命であると、その責任を痛感し、若さと活動力に富んだ青年の力を集結しようという機運が盛っていました。折から元旭川商工会議所専務理事大西功氏の提唱により、川島魁太郎氏(初代理事長)他数名が集まり、東京青年会議所の定款を検討し、JCの本質を研究した結果、広く会員を募集しようと新聞広告するなどして、以後3回の設立準備会の結果1950年11月18日旭川商工会議所1号室において32名の会員出席のもとに創立総会を開催するに至りました。ここに初代理事長に川島魁太郎氏が選ばれ旭川JCは華々しくスタートし、翌1951年2月9日、日本で7番目のJCとして日本JCに正式加入が承認されました。以来各界より注目される数多くの事業を行ない、1977年5月23日には社団法人として認可されました。また日本JC等に多数の役員を送り活発なるJC運動を展開し2010年には60周年を迎えました。「旭川JC宣言」を発信し、その具現化に向かって活動中です。

2016年度の活動軌跡



新年定時総会 理事長バッヂ引継



新年交礼会での挨拶と四役の紹介



卒業生を送る夕べの答辞



市長例会でのプレゼンテーション



旭川冬まつり支援 ボランティアの方々



新会員セミナーの質疑応答



3月第一例会 新会員仮配属式



4月第一例会プレゼンテーション



異業種交流会



5月第一例会 趣旨説明



北海道JCフォーラム2016 子ども縁日



6月親睦事業 パークゴルフ



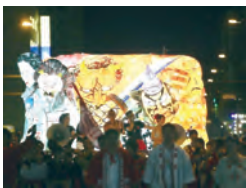
北海道綱引フェスティバル



アカデミー研修塾 ミニバレー大会



7月第一例会 趣旨説明



烈夏七夕まつり 山車の連行



烈夏七夕まつり 太鼓の演奏



鶯歌JC35周年記念式典(台湾)



臨時総会 次年度理事長あいさつ



北海道大会 卒業おめでとうございます



アカデミー研修塾 北の峰での登山



定時総会 円卓で第一回予定者会議



全国大会広島大会 大懇親会



10月第一例会 新会員例会

- 1月 ▶ 定時総会／新年交礼会／卒業生を送る夕べ
(公社)日本青年会議所「京都会議」
／北海道地区協議会「第1回会員会議所会議」
1月第二例会 市長例会「官民協働のまちづくり
～小さな一歩がつくる大きな未来～」
- 2月 ▶ 第57回旭川冬まつり支援事業
「旭川青年会議所プレゼンツ チルドレンフェスティバル」
大雪会議「未来を輝かすリーダーへ!!～拡大なくして成長なし～」
第1回新会員セミナー～熱き心あふれるJAYCEEを目指して～
北海道地区協議会「第2回会員会議所会議」
- 3月 ▶ 3月第一例会「新会員仮配属式」
3月親睦事業「温泉例会～明日への絆を深め、泊まり込む青年達～」
- 4月 ▶ 北海道地区協議会「第3回会員会議所会議」
4月第一例会「MA・TSU・RI」～知ろう語ろう烈夏七夕まつり～
異業種交流会 ～青年経済人の集い 2016 春～
- 5月 ▶ 北海道地区協議会
「北海道 JC フォーラム 2016 - Make the Movement」
5月第一例会「主体的に行動する日本人の育て方」
第2回新会員セミナー～熱き心あふれる JAYCEE を目指して～
- 6月 ▶ 2016 JCI ASPAC 高雄大会(台湾)
6月第一例会「協働のまちづくり～ JAYCEE にできること～」
6月親睦事業「仲間とクラブで未来を切り拓け!輝く BBQ 懇親に向けて」
北海道地区協議会 道北エリア「第3回アカデミー研修塾 in 紋別」
2016 北海道綱引フェスティバル in 旭川 29
- 7月 ▶ 北海道地区協議会「第47次北方領土返還要求
現地視察大会／第4回会員会議所会議」
(公社)日本青年会議所「横浜サマーコンファレンス 2016
- アウフヘーベン」
7月第一例会「Change your MIND Change your LIFE
～今切り拓く無限の可能性～」
- 8月 ▶ 8月第1例会「第26回 烈夏七夕まつり～伝統の創造～」
8月青少年事業「親子でいっぱい体験しよう わくわく体験バスツアー」
臨時総会
友好 JC 台湾鶯歌青年会議所 35 記念周年
- 9月 ▶ 北海道地区協議会「第65回北海道地区大会 函館大会／
第5回会員会議所会議」
定時総会
北海道地区協議会 道北エリア「第4回アカデミー研修塾 in 富良野」
- 10月 ▶ (公社)日本青年会議所「第65回全国大会 広島大会」
10月第二例会 新会員例会「POWER OF HUMAN
～若者と JC が協働する街づくり～」
- 11月 ▶ JCI 世界会議ケベック大会(カナダ)
11月旭川創生事業「まちづくりフェス旭川
～人と人をつなぐ、心あるまちづくり～」
11月第一例会 学校と会社をつなぐ産学連携フォーラム
教室と会社の現場で活かす『アクティブラーニング』の可能性
～地方創生の鍵を握るのは、センセーとシャッコーの人づくりだ!～」
11月第二例会「創立66周年記念式典・祝賀会」
11月第三例会 卒業生例会「卒論」
北海道地区協議会「第6回会員会議所会議」
- 12月 ▶ 12月第一例会「2017年度各委員会プレゼン＆チアーズ」
12月親睦事業「JC クリスマスパーティ」

我々と一緒に活動しませんか？

旭川青年会議所は会員を募集しております。

JC は大きな可能性に向けての自己投資です。

他では得られない信頼関係と真の友情を育みながら、私たちのまち旭川の未来をつくりあげて行きませんか？

青年会議所(JC)とは

国籍・人種・性別・職業・宗教の区別無く、20歳(旭川JCでは25歳)から40歳までの志の高い青年経済人によって構成されています。日本全国697の地域に約36,000人(2016年10月現在)の『修練』『奉仕』『友情』という三信条のもと、率先して行動する仲間がいます。

メンバーからのメッセージ

JC運動を通じて、同年代の社会人達が、かけがえのない友情や信頼関係、自分自身の成長を実感しながら充実した活動をしています！



2014年度入会

(有)エムエー保険サービス
取締役

尾野 洋介

私が入会して一番良かったことは、仲間ができたことだと思います。「合わなかったらやめればいい」「とりあえず仕事にプラスになればいい」などと考えて、軽い気持ちで、進められるがまま入会しました。ですが入会後に待っていたのは、密度の濃い時間と、それを共に過ごす仲間でした。現在は少しでも旭川の為にできることを考え活動しています。少しでも興味があれば、軽い気持ちで入会して自分で経験してみてください。



2015年度入会

(株)モリタエレクトック
専務取締役

守田 敬幸

私は38歳でJCに入会しました。なぜ入会したのか、それは今までに無い自分探しでした。社会人になってから平凡に過ごしていましたが、ある時こんな言葉を先輩に言われました。「何をするかではなく、誰とするかだ」JCに入会してその言葉の意味がわかりました。最高の仲間と出会い、協働の精神で共に邁進することができ、素晴らしい経験をさせて頂きました。これからも豊かなまちづくりの為に地域に還元出来ればと思います。



2016年度入会

(株)トーワ
専務取締役

渡部 康晴

最初は右も左もわからず、戸惑いの日々でしたが日を追う毎に信頼できる同期や先輩方が増えていき、気がつけば沢山の仲間の輪の中にいました。まだ入会して1年ですが多くのまちづくり団体があるなかでも、自分の人生を豊にし、人と人の繋がりを強くしてくれる組織だと実感しています。今後も豊かな社会を築き上げる為、多くの仲間と共に邁進し楽しく活動していきたいと思っています。

JCの4つの機会

青年会議所には、大きく分類して4の機会があります。これらは会員に平等にそして必然的に手にすることの出来るものです。この機会を活かせるどうかはあなた次第です。

個人の機会

Leadership
Development

指導力開発・人間力開発の機会。様々な研修プログラムや活動の中で自己啓発の機会が与えられます。

地域の機会

Community
Development

社会開発・まちづくりの機会。地域社会との関わりができ、社会奉仕活動をする機会が与えられます。

国際的機会

International

国際交流・国際貢献の機会。JCI(国際青年会議所)のメンバーとして、世界と関わる機会が与えられます。

ビジネスの機会

Business

経済活動・経営開発の機会。日本全国、世界各国の同志と出会うことができ、新しいビジネスの機会が与えられます。

新入会員募集要項

- 25歳～40歳までの方
- 旭川市内及びその周辺に居住又は勤務され、所属企業の推薦を受けられる方
- 定められた例会及び委員会に出席でき、JC運動に積極的に参画できる方
- 入会金及び年会費を期日までに納入できる方

※年会費は年度により異なりますので、事務局までお問い合わせ下さいませ。



プレゼンテーションの様子



烈夏七夕まつりの企画、運営



友好関係の鶯歌JC(台湾)との交流



様々な異業種交流の機会



かけがえのない友情を育めます

きっと、あなたの将来に大きな可能性を見出してくれます。

出向メンバーメッセージ

出向とは、所属する青年会議所の活動を行いながら、その舞台を北海道や日本へ広げることを行います。旭川からも本年 17 名のメンバーが出向しました。興味のある分野を掘り下げて吸収し幅広い友情のネットワークが育まれ、自己成長の場となるのが出向の醍醐味です。一年間の出向を終えたメンバーの声をお聞きください。



北海道地区協議会
良循環地域創造委員会
委員長

(株)オイルウェイサービス
代表取締役

鈴木 慎吾

「自分の住む地域だけ良ければいい」と考えていませんか。JC では自らの視点を、そして意識を変革し、学び、考え、行動します。さらに大きなフィールドに目を向けて多様な人とのつながりで自己成長の場としませんか。その機会のひとつに出向があるのです。出向することがゴールではなく、そこで得られた経験や学びを再び LOM に還元されることが醍醐味なのです。これから在籍残された若きあなたに伝えます。旭川青年会議所として地元の発展のため、さあ出向しよう！



北海道地区協議会
良循環地域創造委員会
幹事

北栄通信工業(株)
代表取締役専務

鈴木 大介

全道の JC メンバーと共に北海道を舞台とした事業にチャレンジできます。旭川では行わない多彩な事業が経験でき、私自身の目的に合った出向ができました。私は「自身の力を試し勉強する場」を目標に 1 年間参加し、今後の仕事に関するヒント、日常では経験できない有識者との意見交換、全道 JC 仲間との友情の育みなど大きな財産を得ました。また、地元旭川に情報を持ち帰ることにより、旭川 JC のまちづくり運動へ還元できます。自分で一歩飛び出せばそこには沢山の Treasure が目の前にあります。



北海道地区協議会
地区運営委員会
副委員長

(有)シンワサービス
代表取締役社長

守谷 実

私は、本年度北海道地区協議会に出向させて頂き、北海道地区大会函館大会の運営に携りました。一人の力では乗り越えられない困難も皆が同じ方向を向き、熱い魂が集まれば大きな事が出来ると感動しました。

災害ボランティア活動では、JC メンバーの迅速な行動力や団結力、利他の精神による活動に感銘を受けました。自己修練の場である青年会議所に感謝すると共に人を想い、地域を想う運動に邁進していきたいと思っています。

卒業メンバーメッセージ

青年会議所の会員資格は 40 歳までです。入会年数はそれぞれですが、これまでの達成感と寂しい思いが入り混じる中『卒業』していきます。卒業後はシニアクラブに入会し現役メンバーを見守ってくれる先輩として新たなステージが待っています。2016 年度の卒業生の中から代表して 3 名の卒業生にメッセージをいただきました。



2011年度 入会
2015年度 副理事長
2016年度 監事

(株)酒商山田屋
代表取締役

山田 大生

私は日々、活動に参加しまちづくりを真剣に語る先輩やメンバーと過ごすことで「JC」という魔法にかけていました。魔法の言葉は、目の前にある壁を乗り越えさせてくれるパワーがあります。卒業しても一生解けることのないその魔法は国境や世代を越え永遠に続くものだと思っています。「JC」が考えるまちづくりの成長過程は遅いかもしれませんが、活動を通じてたくさんの人と出会い、自分を磨き、仕事など役に立ててほしいと思います。



2013年度 入会
2015年度 理事/委員長
2016年度 副理事長

(株)アサヒ HL
代表取締役社長

富居 慶幸

JC は機会を提供してくれる団体です。私は 4 年間の JC ライフで常にそれを活かし、自らのため、仲間のため、我がまち旭川のために活動してきました。旭川の未来について深く考え、新しい仲間を得て、市民と協働するという経験を経て、自らも一歩ずつ成長出来たと感じています。JC で得た人と人の繋がりは他には代えられない貴重な財産です。その繋がりを大切に、今後も旭川のために何が出来たかを考え、行動していきたいと思っています。



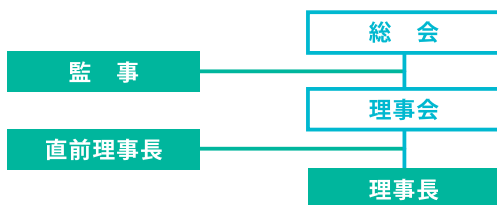
2015年度 入会
2016年度 未来の力支援
委員会 副委員長

大城建設(株)
代表取締役

落合 正行

JC に在籍できる 40 歳までの限られた期間、心の在り方や活動への取り組み方次第で、得られる「モノ」の大きさは変わってくると思います。少なくとも私には、心から信頼し尊敬できる仲間ができました。相互の信頼や尊敬を育むうえで、年齢や男女の差は無いと改めて気付かされる日々でした。何に価値を見出すかは人それぞれですが、この二年間の活動期間は、私にとって何よりも価値ある時間になりました。

2016年度 組織図





広報誌ナナカマドの由来

1964 年、旭川青年会議所は、緑橋通りの緑化運動を行い、ナナカマドを植樹しました。ナナカマドの木は、現在ではイルミネーションで美しく飾られ、緑橋通りの象徴となっていますが、植樹が契機となり、1976 年ナナカマドが、「旭川の木」として制定されました。以上のことからナナカマドは、旭川青年会議所の歴史を作った木でもあり、広報誌の名前も「ナナカマド」となりました。

お問い合わせ先 平日10:00～17:00まで

TEL.0166-22-9815

(一社)旭川青年会議所まで

旭川 JC

検索

<http://www.asahikawa-jc.or.jp/>

過去の広報誌は
WEB サイトより!



第67代 理事長

海老子川 雄介

2017年度理事長決定!

次年度の理事長が決定いたしました。歴代理事長の想いを引継ぎ新たな歴史を刻み始めるのは海老子川雄介君です。2017 年度は海老子川理事長の所信のもと「まちづくり」に対して真剣に向き合いながら個人の成長を遂げ、旭川青年会議所の成長へ結ぶ為、同志と共に新たな1年を歩んで行きたいと思っております。皆様どうぞ宜しくお願い致します。

2017年度理事長あいさつ

旭川青年会議所の第 67 期理事長になることになりました。旭川と同じ雪国、新潟県上越市で転勤族の家庭に生まれ、福島、帯広、東京、札幌で大学までを過ごし、この旭川へは就職でやってきました。私がやってきた 2003 年頃の旭川は 36 万を超える人口を有し、まだ古かった旭川駅前には丸井今井、西武、エスタといった百貨店やデパートがあり、また東海大学でデザインやものづくりを学ぶ学生が全国から集い、当時フリーペーパーに勤めていた私は東海大生の作品展を企画したり、東海大 OB 家具職人を取材したり、デザイナーと一緒に仕事をしてきました。2007 年には旭山動物園来場者数はピークとなる 307 万人を記録し、かつて軍都として栄えた旭川が観光都市として全国から注目を集めた時代でした。

それから約 10 年、駅舎は新しくなり、郊外のみならず駅前にも大型ショッピングモールが上陸し、より便利な街になったのですが、その一方でこの街から消えたものが多くあり、「普段の活気」という面では以前から比べても、他の都市と比較しても、やはりどこか寂しい街になっているのが現状だと私は感じています。

私は、2017 年度の旭川青年会議所の運動理念として「前進」を掲げました。どこか停滞感のあるこの旭川の現状を打破するために、ひと、つながりといった組織の資源を総動員させて事業を強化し、進むべき羅針盤となる夢づくり、変革の能動者となる人づくり、都市間競争に勝てる地域づくりを進めてまいります。今、私たちが現状に立ち向かわねば、未来は取り返しのつかないことになってしまうという危機感を持って、全力で運動を邁進いたします。2017 年度もどうぞよろしくお願いいたします。

みなさまからの声をお待ちしております!

旭川青年会議所では、まちづくり・ひとづくりの様々な運動や活動に役立てるため、みなさまからの声を募集しております。簡単な設問をご用意させていただきましたので、つきましては右の QR コードより WEB アンケートページにアクセスいただき、ご回答頂けますと幸いです。みなさま一人ひとりの声を、今後の活動に活かしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

WEBアンケート募集期間

2016 年 11 月 10 日(木)～2017 年 2 月 20 日(月)まで

WEB
アンケート



【編集後記】ファンづくり発信室 委員長 平間 恵子

(一社)旭川青年会議所 2016 年度広報誌をご覧頂きましてありがとうございました。2016 年度は石川理事長のもと様々な運動を展開してまいりました。その運動はシニアクラブ諸先輩の皆様、そして外部関係者皆様のご協力があって実現してきたものも多々ございました。ほんの一部ではございますが、活動内容をご報告することでお礼と代させていただきます。2017 年度もどうぞ宜しくお願い致します。